

桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校

校長 大塚 潤

合唱コンクール、盛大に開催！

仲間とともに感動のステージを披露

9月29日(金)に、本年度の合唱コンクールを盛大に実施することができました。合唱には、「人と人をつなぐ力」「人の思いや願いをつなぐ力」があります。そして、歌には「思い出と結ぶ

力」をもっています。実行委員・指揮者・伴奏者・パトリダーの思い、担任の先生の願い等、いろいろな「心・気持ち」が繋がって素晴らしいハーモニーができあがるのが合唱。でも、「つながる」とことで、そんなに簡単なこと

ではありません。簡単ではないことに君たちは果敢に挑戦してくれた。「打ち込み・粘れ・欲を出せ」この夢を実現させるために大切な3つのキーワードを、しっかりと実現・実践してくれました。本当にみんなよく頑張ったと



みんなで創り上げた感動のステージ

思います。どれだけ努力してきたか、どれだけいろいろな工夫を試してきたか、どれだけチームワークを発揮し、支え合って、励まし合ってきたか、そんないままでの頑張りがあったからこそ、素晴らしいコンクールになったと思います。コンクール当日までいろいろなことがあったことでしょう。賞をねらうことは目的の一つ。でも、「勝つこと」よりも「勝ちに行くこと」にひたすらこだわらる中で、**人生で大切なこと**をいろいろ学んだことだと思います。学んだことで君たちの「感性」は大きく成長しているはず。結果として賞以上のもの、「同じ目的に向かっ一つのことに打ち込むこと、そのためにまとまること、そして協働して新しいものをつくりあげること」これらの素晴らしいことを学び、体験できたことが何にも代えがたい財産となりました。

や先生、いろんな人の思いを感じながら歌い上げることができました。心と心がつながり、音と音がつながり、素晴らしいハーモニーをつくり出すことができた君たちを誇りに思います。

コンクールは、歌った皆さんが主役であることはもちろんですが、会場の全員でつくり上げた合唱コンクールだったといえます。歌だけではなく、様々な場面で、互いを認め合い、引き立て合い、つくり上げる取組が必要な世の中といえます。

この貴重な経験をこれからの学校生活に存分に生かしてほしいと思います。

「行事」は終わった後が大切です。桜色の挨拶・時間を守ること、321運動、履き物そろえ・積極的に取り組む授業など、合唱コンクールの取組を通して学んだことをしっかりと日常生活に生かすことを心がけよう。

芸術とは

鼓くらべ(『光村ライブラリー・中学校編第3巻 最後の一句ほか』)

この作品は、昭和53年から昭和61年まで中学校の国語の教科書に掲載されました。

物語は江戸時代、主人公お留衣とある老人を中心に展開します。お留衣は「鼓くらべ」を目指し精進しますが、老人は「鼓くらべ」への参加をやめるように話します。

「すべて芸術は、人の心を楽しませ、清く、高めるために役立つもので、そのために誰かを負かそうとしたり、人を押しのけて、自分だけの欲を満足させたりする道具にすぎきではない。鼓を打つにも、絵を描くにも、清浄なあなたが心がないかぎり、何の値打ちもない。お嬢様、あなたは優れた鼓の打ち手だと存じます。お城の鼓くらべなどにお上がりなさらずとも、その音並みは立派なものでございます。おやめなさい。人とおやめなさい。音楽はもっと美しいもの

です。人の世で最も美しいものです。」

お留衣は、意味を理解できず参加してしまいます。そして「鼓くらべ」の最終に、対戦相手の顔を見ることになりました。

「あおぐめ、その唇は引きつるように片方へゆがんでいた。それは、どうかして勝とうとする心をそのまま絵にしたような激しい執念の相であつた」

その結果、お留衣は老人の言葉の意味を悟り、演奏を止めてしまいます。相手の醜い顔は、以前の自分の顔そのものだったことに気づいたからです。

中学生になると、部活動習い事、受験などで、人と競い合う機会が増えてきます。「試合で勝つ」「コンクールで優勝」「希望した高校に合格」と目標を決めて努力することは大切です。一方、何かに一身に打ち込むことで、人として大切にしなければいけない生き方・考え方に気づくこともあります。そのことについて、語る本作



■男子16位 1時間4分38秒
江川・高屋・小森・田道・池田・迫中

■女子6位 47分18秒
小森・橋本・松尾陽美和・安倍・松尾菜々美

**自分を信じて、仲間を信じて、走り抜く
姿に感動・感激、そして感謝**

品を読むことは、中学生のみならず、教師、保護者、周囲の大人にも大変意味があります。

例えば、オリンピック、パラリンピックなどでは、常にメダルの獲得数が話題になります。でも、「勝った」「負けた」ということを重視する環境の中で生活していると、いつの間にか結果主義になってしまい、次第に教育的側面に対する考えが浅くなってしまう。

「教育にとって大切なことは何か」について、常に意識し考え続ける必要性や感性に気づかせてくれる貴重な作品です。

相手大切にできる人は自分大切にできる

本校の目指す生徒像の一つに「言葉を大切にし、互いを認め、励まし合える生徒」があります。その目指す生徒像に近づくために、9月26日に3年生で次のような内容で学年集会を行いました。

①コンクールまであとわずか。みんなの練習のうたを聞いて、鳥肌が立ち、涙がこぼれました。みんなで力を合わせ、一生懸命に歌う、その姿・表情に心打たれたのです。その姿が、心の中から本物に

なるために、今日は大切な話をします。

初めての学年練習の前に「思いやりを持って、心ある歌を歌ってほしい。」と話しました。忙しいという字は、心を亡くすと書く。心を亡くすな、無気になるなど。「川の流れば見える。時の流れは見えな」という掲示板の言葉を紹介します。川の流れば見える。人の心は見えない。どう思いますか。人の心は見えませんが、人

の心は悲しいのに笑っている、辛くても言葉にできない。何かを我慢している。心は見えないから。見えないことをいいことに、平気で言葉で傷つける人、笑う人がある。心は命です。なくなつた時に、確かにあったことがわかる命と同じです。3年生138名の見えないう心にもあります。こんな苦しみ。不安や、やるせないさが、いじめの事実があります。その行為、事実がわかっていることがあります。だから、今日話をします。

「ここからは、以前の私の学級での話です。」

②人権学習を機に、学活の時間に「自分を語る」活動をしました。自分が今辛いこと、されたら嫌なこと。反対に嬉しかったことなど、自分の気持ちを友達に話し、班員はその話を聞く。仲良しグループではなく、給食を一緒に食べたり、掃除をしたり、日直をするなどの班活動です。ある班で、班内の女子に促され、A君が、自分に今起きていることを話してくれました。周りの大人である親にも先生にも話さなかったことを。その内容は、「野球の練習の時、ベルトで体を

縛られる。倉庫に閉じ込められた」というものでした。A君は、一人であることが多く、少し人とは違う、変わっていると思われ、約半年をかけて、学級のみならず、A君の個性を受け入れていたと思えます。だからこそ、A君が話した時、あまりの衝撃に班員は悲しみました。そして、怒りました。その後、部活や学年の先生方、保護者、生徒でこのいじめ問題を解決することができました。関係者が集まって話し合った場で、A君のお母さんは、息子の苦しみ気付かなかったことを悔やんで涙されました。子どもは親に心配かけまいとするから、親はなかなか気づけないです。いじめられた人が、家族が、こつこつ悲しむこと、いじめた人はわからないでしょう。このいじめがわかつたときだけは、学級の生活班の仲間がA君の様子に気づいて話を聞いてくれたこと。そして、A君が班員を信じて話してくれたことでした。誰にも話せず、いつも笑っていたA君の見えない心の中。救ったのは班の仲間でした。生活班活動の中でつながりができていたのです。

今日の話は、一般論ではありません。はじめに話したように、3年生の話です。自分のことを見つめてください。学級や生活班の仲間。その心の中が見えないのいいことに、心配りを忘れていませんか。しんどくないかな、苦しくないかな、嫌じゃないかな。こんな心配りが増えたら、どんなに過ぎしやすい教室でしょうか。

③いまから10年前、文部科学省が「いじめ防止対策推進法」を施行しました。「いじめが、いじめを受けた児童等の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命または身体に重大な危険を生じさせる恐れのあるものであることに鑑み、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するため、いじめの防止等のための対策に関し、基本理念を定め、国に及び地方公共団体等の責務を明らかにし、並びにいじめ

防止等のための対策に関する基本的な方針の策定について定める」といじめの防止等のための対策の基本となる事項を定める必要がある。これが法律案の提出理由である。「法律の中には、第4条、児童等はいじめを行ってはならない。」とはつきりあります。これは、ここにいるみんなも周知の事実です。生まれてから、家の人に教えられ、小学校からいままでも、習ってきたことです。しかし、10年前にこの法律は作られた。いじめがなくならない、いじめによって傷つき、学校に行けなくなる人や、勉強に集中できない人がいて、自らの命を絶つ人が未だにいるからです。A君を救った班の仲間の話。生活班とは字のごとく生活を共にし、支えあう仲間であるべきです。

(次号に続く)

